

授業科目名	多文化社会の社会教育	担当教員	姚 瑤
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	本授業では、日本および世界における多文化社会の現状と課題について理解を深めるとともに、国際的な人の移動や地域社会における外国人住民の生活・教育支援など、身近な事例を通して学ぶ。さらに、「やさしい日本語」や演劇的手法を取り入れた実践的な活動を行い、多文化共生に必要なコミュニケーションのあり方を体験的に探究する。子どもと教育、母語とアイデンティティの問題も取り上げ、多文化社会の実現に向けた課題と展望について総合的に考察する。		
到達目標	本授業を通じて、学生は多文化社会に関する事象を自らの言葉で整理し説明できる力を養うとともに、異なる文化的背景をもつ人々との協働や相互理解に必要なコミュニケーション方法を実践的に身につける。また、多文化共生に関する課題を批判的に考察し、地域社会や教育の場において自らの意見や提案を主体的に発信できるようになることを目指す。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 異文化理解について</li> <li>3 世界の多文化共生</li> <li>4 多文化社会と働く外国人</li> <li>5 多文化社会と地域の外国人Ⅰ</li> <li>6 多文化社会と地域の外国人Ⅱ</li> <li>7 やさしい日本語Ⅰ</li> <li>8 やさしい日本語Ⅱ</li> <li>9 多文化社会と子どもたちⅠ</li> <li>10 多文化社会と子どもたちⅡ</li> <li>11 多文化社会の実現について</li> <li>12 全体総括・最終レポート</li> </ol>		
事前・事後学習	毎回の授業のテーマに関連する書籍などの情報を収集し、目を通しておくこと		
テキスト	特定の教科書は定めていませんが、随時参考資料をご紹介します。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生のための市民性教育研究会編著（2020）『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック』明石書店</li> <li>・徳田剛、二階堂裕子、魁生由美子編著（2023）『地方発多文化共生の仕組みづくり』晃洋書房</li> <li>・松永典子編著（2018）『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』金木犀舎</li> </ul>		
成績評価の基準	授業態度（出席や授業中の議論への貢献等）（30%） グループ課題発表（30%）		

	最終レポート (40%)
履修上の注意 履修要件	原則として、20分を超える遅刻の場合は、欠席扱いとする。 欠席回数が4回以上(4回を含む)の学生は成績評価の対象外とし、単位を修得できない。
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修定員超過の場合は、累計 GPA により選考を行う。